

79. 慢性硬膜下血腫患者のせん妄発症状況と関連因子の実態

研究の概要

慢性硬膜下血腫とは、頭蓋骨の内側で脳を包む硬膜と脳表面間にある静脈が破綻し、ゆっくりと硬膜下に血腫が溜まる状態です。治療は手術療法であり、術後はドレーンが留置されます。手術翌日の頭部CTにて血腫の除去を確認しドレーンは抜去となります。

平成30年度、7階北病棟における慢性硬膜下血腫の穿頭血腫除去術患者は41名でした。ICD-10によるせん妄の診断基準には、意識・注意障害、認知機能の障害、精神運動性障害、睡眠覚醒リズムの障害、感情障害があり、せん妄を発症した高齢患者にみられる臨床症状として、行動に落ち着きがなく、入院治療を受けていることへの理解が困難であり、説明を受けてもすぐに忘れるという症状を認めます。その結果、病棟でも、高齢者が治療上の安静を保てず、点滴やモニタリングなどの身体に装着中の器具を抜去するというような治療継続が困難な状況が生じていました。せん妄ケアには、多くの看護師が困難を感じていましたが、効果的な介入方法を見いだせずにおりました。せん妄は、身体的・心理・環境的要因などの幅広い因子により起こるため、効果的なケアのあり方の探究が続いている現状があります。そこで、7階北病棟における慢性硬膜下血腫のせん妄発症状況と関連する因子の実態を明らかにしたいと考え、本研究を計画しました。

研究の目的と方法

目的：慢性硬膜下血腫のせん妄発症状況と関連する因子の実態を明らかにする

対象：7階北病棟において慢性硬膜下血腫の診断で入院した患者41名

方法：電子カルテを後方的に調査し、過去1年間の慢性硬膜下血腫である患者の入院時から入院3日目において、せん妄発症者とせん妄未発症者とを分類し、それぞれの環境因子を比較します。

本研究の参加について

これにより患者さんに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。皆様の貴重な臨床データを使用させていただくことにご理解とご協力をお願いします。本研究にご自身のデータを使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございます際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は新たな試料・情報を取得する事はなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者（患者さん）の個人情報（氏名、住所、電話番号、カルテ番号など）は記載しないため個人が特定されることはありません。

調査期間

調査対象期間：2018年1月1日～2018年12月31日

研究実施期間：倫理委員会承認後から令和3年3月31日

研究成果の発表

調査した患者さんのデータは集団として分析し、学会で発表します、また、個々の患者さんのデータを発表する時も、個人が特定されることはありません。

研究代表者

7階北病棟看護師 宮崎麻美

当院における研究責任者

7階北病棟看護師 宮崎麻美

問い合わせ先

7階北病棟看護師 宮崎麻美

TEL: 096-353-6501